

大津企業景況調査報告書

(第51回)

平成22年10月～12月期 実績

平成23年 1月～ 3月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(平成22年10月～12月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業100社にFAX方式による調査

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
建設業	20社	18社	90.0%
製造業	10社	9社	90.0%
卸売業	10社	7社	70.0%
小売業	30社	25社	83.3%
サービス業	30社	22社	73.3%
合計	100社	81社	81.0%

3. 調査期間

調査対象期間は平成22年10月～12月とし、調査時点は平成22年11月12日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数としてDI指数を採用した。DI指数とはDiffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」のDI指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」のDI指数は、3ヵ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」のDI指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

景況感は足踏み状態に

平成 22 年 10 月～12 月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数として DI 指数（景気動向指数）を採用している。DI 指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は、前四半期は円高の進行等の影響で再び悪化したが、今四半期はやや改善し、足踏み状態になった。売上をはじめ各指標ともやや改善した。業種別では、業況判断 DI が小売業、サービス業は前年比マイナス幅が縮小し、製造業では前年と不変であるが、建設業、卸売業ではマイナス幅が拡大した。先行き見通しは、製造業、建設業が悪化すると見込んでいるが、他の業種は今四半期と変わらず、設備投資においては景気の「二番底」懸念が和らいでいる感もある。

□ 業況判断 DI（前年同期比）はやや改善

「前年同期比でみた業況判断 DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前四半期は円高の進行や個人消費の伸び悩み等により▲29 まで再び悪化したが、今四半期はやや持ち直して▲24 となった。小売業、サービス業は前年比マイナス幅が縮小し、製造業では前年と不変であるが、建設業、卸売業ではマイナス幅が拡大した。

□ 売上 DI（前年同期比）はやや改善するも業種でバラツキ

「前年同期比でみた売上 DI(全体)」（「増加」－「減少」）は、前四半期の▲40 から今四半期▲32 とやや改善した。業種別にみると、建設業、小売業およびサービス業はやや改善したが、製造業、卸売業はやや悪化し業種間にバラツキがみられる。

□ 採算 DI（前年同期比）はやや改善

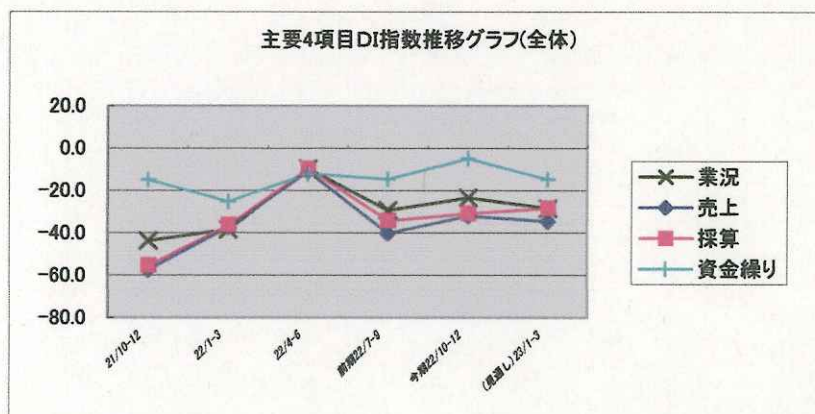
「前年同期比でみた採算（経常利益）DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前四半期の▲34 から今期▲31 とやや改善した。業種別にみると、製造業、小売業およびサービス業はやや改善したが、建設業、卸売業はやや悪化した。

□ 資金繰り DI（3 ヶ月前比）は悪化が小休止

「3 ヶ月前比でみた資金繰り DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前四半期の▲15 から今四半期▲5 と悪化が小休止した。不況による企業業績悪化の中で金融機関に返済軽減協力を求める金融安定化法の効果もあるとみられる。

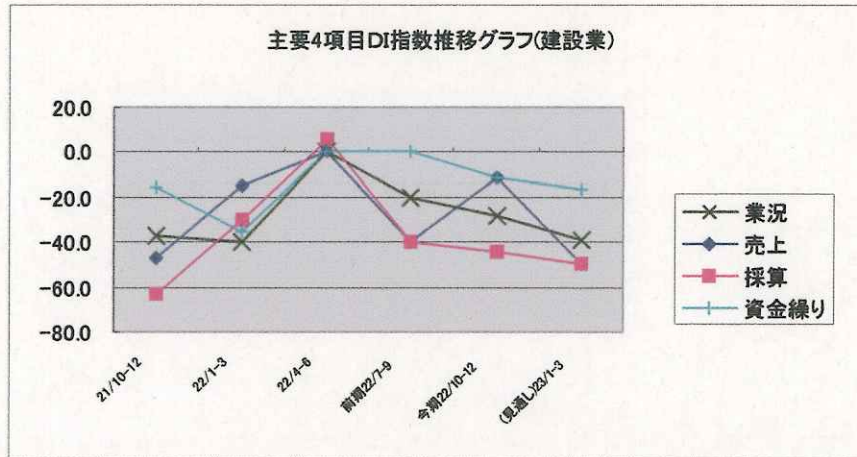
□ 従業員 DI（前年同期比）はやや不足に

「前年同期比でみた従業員 DI(全体)」（「不足」－「過剰」）は、前四半期の▲4 が今期+1 と 5 ポイント改善しやや不足に転じた。業種別にみると、建設業、製造業でまだ少し過剰感があるが、卸売業、小売業で不足感が強まりサービス業は過不足なしである。



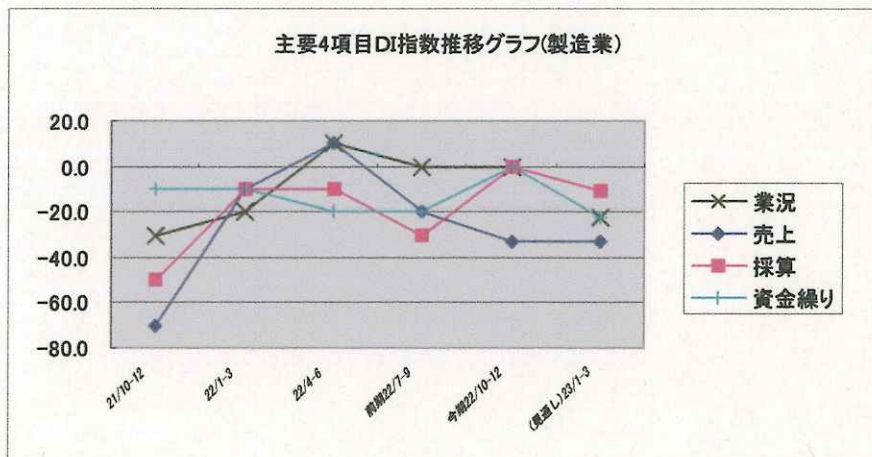
建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲20 から今四半期▲28 と悪化した。「売上」は前四半期の▲40 から今四半期▲11 と改善したが、「取引の問合せ」が前期の▲40 から今四半期▲50 と低調な市況が続いており、過当競争から安値受注になって「採算」が今期も▲44 と悪化が続いていることによるものとみられる。「従業員」は前四半期の▲7 から今四半期▲6 とやや過剰で推移している。「資金繰り」は前四半期の±0 (不変) から今四半期は▲11 と悪化に転じ、やや厳しくなってきた。



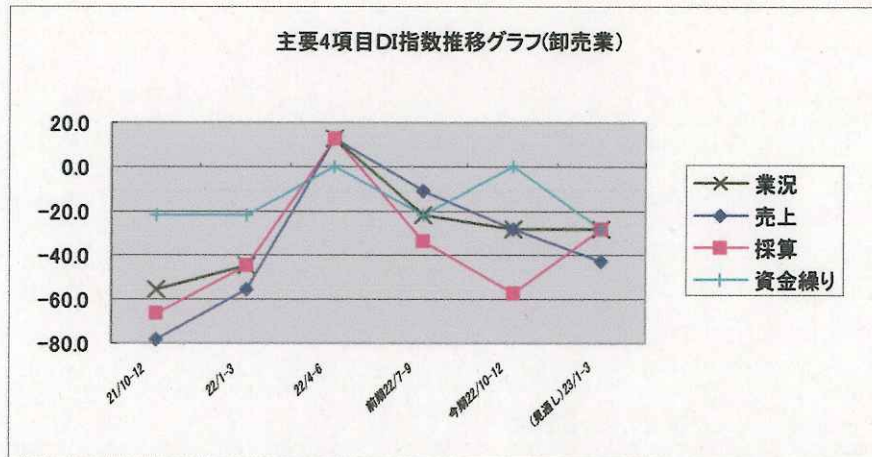
製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期も今四半期も±0 と足踏み状態である。「売上」は前四半期の▲20 から今四半期▲33 とさらに減少したが、「採算」が前四半期の▲30 から今四半期±0 と悪化が止まり、「採算水準」が前四半期の+30 から今四半期+67 と大幅に改善したことによるものとみられる。「従業員」は前四半期の▲30 から今四半期▲11 と過剰感が減退した。



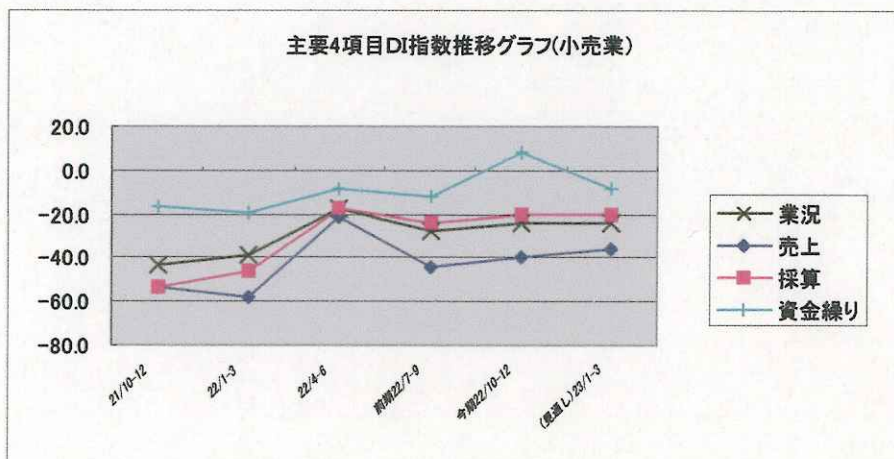
卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲22 から今四半期は▲29 と悪化した。これは「売上」が前四半期の▲11 から今四半期▲29 にさらに減少していることに加えて「取引の問合せ」が前四半期の▲44 から今四半期▲71 とさらに低調な市況になっているので過当競争になり「採算」が前四半期の▲33 から今四半期▲57 とさらに悪化していることによるものとみられる。



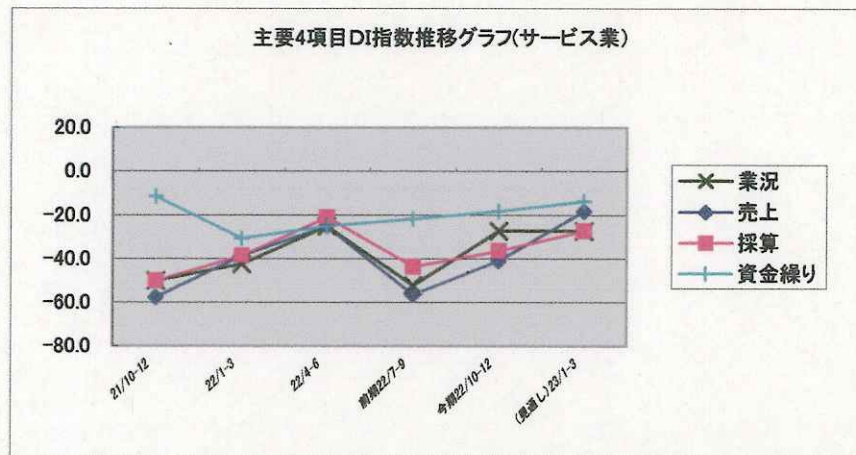
小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲28 から今四半期は▲24 とやや改善した。「売上」は前四半期の▲44 から今四半期▲40 とやや改善し、「採算」も前四半期の▲24 から今四半期▲20 とやや改善し、「取引の問合せ」も前四半期の▲40 から今四半期▲32 と改善したことによるものとみられる。「従業員」は前四半期の+4 から今四半期+8 とやや不足感が出ている。



サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲52 から今四半期は▲27 に改善した。「売上」は前四半期の▲57 から今四半期▲41 と改善し、「採算」も前四半期の▲44 から今四半期▲36 とやや改善し、「取引の問合せ」も前四半期の▲52 から今四半期▲36 と改善したことによるものとみられる。「従業員」は前四半期も今四半期も過不足なしで推移している。



3 ヶ月後の見通しについて、全体の「業況」は改善した今四半期の▲24 から▲28 とやや悪化する見通しをしている。「売上」は8ポイント悪化して▲35、「採算」は3ポイント改善して▲28 の見通しである。業種別の業況判断をみると、工事減少が見込まれる建設業は11ポイント悪化して▲39 となり、円高の影響が懸念される製造業は22ポイント悪化して▲22 となる見通しであるが、卸売業、小売業、サービス業は今四半期と変わらないとみている。これは景気対策効果のはげ落ちや円高等の要因により先行き不透明な中で、一進一退するという慎重な認識を示しているものとみられる。

3 ヶ月後の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は前四半期の26%から11ポイント減少して15%となった。製造業が前四半期の40%から33%に減少し小売業が32%から28%に減少し、他のすべての業種も減少して低調である。投資企業の投資内容の割合は更新投資が46%で最も多く、生産力増加投資が15%、合理化・省力化投資が8%であった。投資方針は、「今後の景気にかかわらず計画通り投資を行う」とする企業が前四半期38%から今四半期50%に増えた。これは更新投資の比重が高いことに加え、景気に先行き不透明感はあるものの「二番底」懸念が和らいでいるためではないかと考えられる。

(MBA・中小企業診断士 田中清行)

(今の経済情勢に対する意見)

今の経済情勢に対する意見を寄せた企業は11社であった。

- ・気候に左右される為、急激に寒くならない様に願っています。
- ・大津地域において合併による志賀地区の向上、堅田商工会は地域性の向上、雄琴地域では市の助成による箱物の充実、大津中心では特区等による力が入る。南部地域での瀬田との連動した、てこ入れが必要。
- ・住宅新築の減少、リフォーム等補助金の一年を通した運用制度があるほうがいい。
- ・景気も一向に良くなりならず、先行き不透明で、閉塞感が漂う中、尖閣問題でレアメタルの輸出を止められるなど、中国の圧力に屈して、情けない思いがしています。現政府は政権を取るためのばらまき政策や、その場しのぎの政策ではなく、先を見据えた経済対策を打ってほしいものです。
- ・先が見えない→夢も希望も抱けない。
- ・新聞紙上では、景気は上向きとの報道がありますが、我々末端の零細企業はまだまだ先の見えない不況のまっただ中です。受注もあり売上げも上がっていますが、コスト面でなかなか厳しく、資金繰りに零細企業は窮しているのではないのでしょうか。
- ・大手量販店の仕入単価上昇がないかぎり、各メーカーへの原材料単価上昇はありえない。
- ・今の政治・外交では、自分の事業がいつおしつぶされるかわからない不安がある。(製造業の不振、農業の破壊、将来に向かって安定した事業活動ができないのではないかという不安)。
- ・政府に、個人消費の回復を促す具体策を期待します。
- ・節約に節約を重ね、価格で物を選んでいる時代ですが、次の時代につながる商品を作り販売し、また良きものを消費し「文化」を創造することが、これからは大切だと思えます。このままでは日本の文化もしくは日本人としてのアイデンティティーを見失ってしまいます。

D I 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	10-12月期 動 向	1-3月期 見通し	10-12月期 動 向	1-3月期 見通し	10-12月期 動 向	1-3月期 見通し
全 体	▲ 23.5	▲ 28.4	▲ 32.1	▲ 34.6	▲ 30.9	▲ 28.4
建 設 業	▲ 27.8	▲ 38.9	▲ 11.1	▲ 50.0	▲ 44.4	▲ 50.0
製 造 業	0.0	▲ 22.2	▲ 33.3	▲ 33.3	0.0	▲ 11.1
卸 売 業	▲ 28.6	▲ 28.6	▲ 28.6	▲ 42.9	▲ 57.1	▲ 28.6
小 売 業	▲ 24.0	▲ 24.0	▲ 40.0	▲ 36.0	▲ 20.0	▲ 20.0
サービス業	▲ 27.3	▲ 27.3	▲ 40.9	▲ 18.2	▲ 36.4	▲ 27.3
	昨年の同期との比較		昨年の同期との比較		昨年の同期との比較	
	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	10-12月期 動 向	1-3月期 見通し	10-12月期 動 向	1-3月期 見通し	10-12月期 動 向	1-3月期 見通し
全 体	▲ 3.7	▲ 12.3	▲ 40.7	▲ 44.4	1.2	▲ 3.7
建 設 業	▲ 5.6	▲ 11.1	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 5.6	0.0
製 造 業	66.7	11.1	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 11.1	▲ 33.3
卸 売 業	0.0	▲ 28.6	▲ 71.4	▲ 71.4	14.3	0.0
小 売 業	▲ 12.0	▲ 12.0	▲ 32.0	▲ 36.0	8.0	4.0
サービス業	▲ 22.7	▲ 18.2	▲ 36.4	▲ 45.5	0.0	▲ 4.5
	該当期について		該当期について		昨年の同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	10-12月期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し
全体	▲ 4.9	▲ 14.8	▲ 6.2	▲ 6.2	▲ 3.7	▲ 3.7
建設業	▲ 11.1	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 5.6	▲ 5.6
製造業	0.0	▲ 22.2	11.1	0.0	11.1	0.0
卸売業	0.0	▲ 28.6	▲ 14.3	▲ 14.3	▲ 14.3	▲ 14.3
小売業	8.0	▲ 8.0	8.0	8.0	4.0	8.0
サービス業	▲ 18.2	▲ 13.6	▲ 18.2	▲ 13.6	▲ 13.6	▲ 13.6
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	



大津商工会議所

〒520-0806 大津市打出浜2番1号

コラボしが21・9F

TEL 077-511-1501

FAX 077-526-0795

URL <http://www.otsucci.or.jp/>